**おおさかＱネット「高齢化社会におけるペット飼育」**

**に関するアンケート分析結果概要**

■実施期間　平成30年9月28日（金）から10月1日（月）

■サンプル数　大阪府民（18歳～64歳）700人、大阪府民（65歳以上）300人の計1,000サンプル。その内、現在、犬又は猫を飼っている人（500人）、及び過去に飼ったことがある人（500人）。



**1.調査目的**

大阪府では、「人と動物とが共生できる社会の実現」を図っていくことをめざす「大阪府動物愛護管理推進計画」（平成26年4月改定）を策定し、動物愛護管理行政の推進に取り組んでいる。

今般、動物愛護の取組みの推進に資するため基金が創設され、基金を活用した新たな取組みを検討する中で、高齢者がペットを飼育することによる影響や課題等について調査を行い、今後の施策検討のための参考とする。

**2.主な調査（検証）項目**

仮説１：高齢者の方が、最後まで世話をする自信がないと考える人が多く、ペットを飼っている人は、今のペットで最後にしようと思っている。

仮説２：ペットを飼育する上での不安と負担は年代、所得によって違う。

仮説３：ペットの面倒を見られなくなった場合に頼れる人がいる人は、またペットを飼いたいと思う割合が高い。

仮説４：高齢者の方が、ペットの面倒を見られなくなった場合に頼れる人がいない人の割合が高い。

**3.主な調査（検証）結果**

仮説１：高齢層の方が、若年層や中年層と比べ、現在ペットを飼っていない理由（最も当てはまるもの）として、「最後まで世話をする自信がない」を挙げた人の割合が高かった。

 　また、今後のペット飼育希望の有無についても、高齢層の方が、「ペットを飼えな

い」・「飼いたいとは思わない」と回答した人の割合が高かった。

仮説２：不安や負担に感じている事項については、上位に挙げられた項目は概ね同様であったが、順位については、年齢層や世帯年収の違いによって、多少の違いが見られた。

仮説３：ペットの面倒を見てくれる人がいる場合は、いない場合に比べ、ペットを飼いたい（現在飼っている人は、次も飼いたい）と回答した人の割合が高かった。

仮説４：ペットの面倒を見てくれる人の有無については、年齢層の違いによる統計上の有意差は見られなかった。

（注）

1.　「おおさかＱネット」の回答者は、民間調査会社に登録されたインターネットモニターであり、回答者の構成は無作為抽出サンプルのように「府民全体の縮図」ではない。そのため、アンケート調査の「単純集計（参考）」は、無作為抽出による世論調査のように「調査時点での府民全体の状況」を示すものではなく、あくまで本アンケートの回答者の回答状況にとどまる。

2.　割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。

3.　図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

4.　図表中の上段の数値は人数（n）、下段の数値は割合（％）を示す。

5.　図表下にカイ2乗検定の値（p値）を記載しているものは、信頼度5％水準で統計上の有意差がみられたもの。

6.　複数回答のクロス集計については、カイ2乗検定を行っていない。

**1.ペットを飼えない理由（最後まで世話をする自信がない）と年齢との関係性**

　過去にペットを飼っていた人が現在ペットを飼っていない理由や、現在ペットを飼って

いる人が、今のペットが亡くなった場合にペットをまた飼う意向がない人の理由について

年齢との関係性を検証した。

年齢層については、18歳以上39歳以下を【若年層】、40歳以上64歳以下を【中年層】、

65歳以上を【高齢層】とした。

**1-1ペットをまた飼育したいと思わない理由と年齢との関係性（過去にペットを飼育していた人）**

まず、過去にペットを飼っていた人（500人）が、現在ペットを飼っていない理由について年齢層で比較したものを参考に記載する。

◆現在ペットを飼っていない理由について、若年層は「十分に世話ができないから（26.3％）」、中年層と高齢層が「ペットとの別れ（死別）がつらいから（中年層：27.0％、高齢層：30.3％）」が最も多く、次いで若年層は「ペットとの別れ（死別）がつらいから（19.7％）」、中年層が「十分に世話ができないから（23.0％）」、高齢層が｢最後まで世話をする自信がないから（21.7％）」となり、3番目には、若年層と中年層が「ペットが飼えない住宅に住んでいるから（若年層：15.1％、中年層：18.9％）」、高齢層が「十分に世話ができないから（19.7％）」となった。（図表1-1-1）

【図表1-1-1】





次に、現在ペットを飼っていない理由のうち「最後まで世話をする自信がないから」と回答した人と年齢との関係について検証する。

現在ペットを飼っていない理由について、「最後まで世話をする自信がないから」と回答

した人を【最後まで世話をする自信がないから】、「ペットとの別れ（死別）がつらいから」や「ペットが飼えない住宅に住んでいるから」など他の理由を回答した人を【その他の理由】とする。

* 現在ペットを飼っていない理由（最も当てはまるもの）として、「最後まで世話をする自信がない」と回答した人の割合は、若年層や中年層に比べて、高齢層の方が高かった。（図表1-1-2）

【図表 1-1-2】





**1-2ペットをまた飼育したいと思わない理由と年齢との関係性（現在ペットを飼っている人）**

　現在ペットを飼っている人（500人）の中で、「次のペットを飼えない・飼いたいとは思わない」と回答した人（117人）の理由について年齢層で比較したものを参考に記載する。

◆ペットを飼えない・飼いたいとは思わないとする理由について、若年層と中年層では「ペットとの別れ（死別）がつらいから（若年層：45.5％、中年層：36.8％）」、高齢層は「最後まで世話をする自信がないから（57.9%）」が最も多く、次いで若年層が「十分に世話ができないから（22.7％）」、中年層が「最後まで世話をする自信がないから（26.3％）」、高齢層が「ペットとの別れ（死別）がつらいから（17.5％）」となり、3番目は若年層が「経済的な理由で（9.1％）」、中年層と高齢層が「十分に世話ができないから（中年層：13.2％、高齢層：14.0％）」であった。（図表1-2-1）

【図表1-2-1】





次に、ペットをまた飼いたいと思わない理由のうち「最後まで世話をする自信がないから」と回答した人と年齢との関係について見る。

* ペットをまた飼いたいと思わない理由として、「最後まで世話をする自信がないから」と回答した人の割合は、若年層や中年層に比べて、高齢層の方が高かった。（図表1-2-2）

【図表1-2-2】





**1-3ペットの飼育希望と年齢との関係性**

まず、現在ペットを飼っている人（500人）に、現在飼っているペットが亡くなった場合にまた飼いたいと思うかについて調査した結果を参考に記載する。

◆「できるなら飼いたい（31.8％）」が最も多く、次いで「その時にならないとわからない（25.8％）」、「ぜひ飼いたい（19.0％）」「また飼いたいが飼うことが出来ない（11.8％）」、「飼いたいとは思わない（11.6％）」であった。（図表1-3-1）

【図表1-3-1】





次に、ペットが亡くなった場合の次のペットの飼育希望の有無と年齢との関係について見る。

「またペットを飼いたいと思うか」との質問に対し、「ぜひ飼いたい」「できるなら飼いたい」と回答した人を【飼いたい】とし、「また飼いたいが飼うことが出来ない」「飼いたいとは思わない」と回答した人を【飼えない・飼いたいとは思わない】とする。なお、「その時にならないとわからない」と回答した人は除いた。

* 高齢層は、若年層、中年層と比べて、またペットを飼いたいと回答した人の割合が低かった。（図表1-3-2）

【図表1-3-2】





**2.ペットを飼育するにあたっての不安や負担と年齢及び年収との関係性**

　ペットを飼うにあたって不安や負担に感じている（いた）ことについて、年齢や年収によって違いがあるか確認した。

**2-1年齢層との関係**

　ペットを飼う場合に不安や負担に感じていることについて、各年齢層での調査結果を参考に記載する。

◆不安に感じているものとして、各年齢層ともに「ペットが亡くなった場合の悲しみについて」が最も割合が高く、次いで若年層と中年層が「十分な世話ができるか」、高齢層は「ペットの健康／高齢化について」、3番目は若年層が「経済的な負担について」、中年層が「ペットの健康／高齢化について」、高齢層は「自分の手で最後まで世話ができないかもしれないこと」であった。（図表2-1-1）

【図表2-1-1】





* 負担に感じているものとして、若年層が「トイレの始末／エサやり」、中年層と高齢層が「旅行や外出が難しくなる」が最も割合が高く、次いで若年層が「負担に感じている（いた）ことはない」、中年層と高齢層が「病気や予防の対応」、3番目は若年層と中年層が「経済的な負担について」、高齢層が「負担に感じている（いた）ことはない」であった。（図表2-1-2）

【図表2-1-2】





**2-2年収との関係**

　ペットを飼う場合に不安や負担に感じていることについて、年収での調査結果を参考に記載する。

世帯年収（税込）については、【収入300万円未満】【収入300万円～800万円未満】【収入800万円以上】の3つに区分する。

◆不安に感じている事項として、各年収区分ともに「ペットが亡くなった場合の悲しみについて」が最も割合が高く、次いで「十分な世話ができるか」、3番目は【収入300万円未満】【収入300万円～800万円未満】が「ペットの健康／高齢化について」、【収入800万円以上】は「不安に感じている（いた）ことはない」であった。（図表2-2-1）

【図表 2-2-1】





◆負担に感じているものとしては、各年収区分ともに「旅行や外出が難しくなる」が最も割合が高く、次いで【収入300万円未満】【収入300万円～800万円未満】が「病気や予防の対応」、【収入800万円以上】は「負担に感じている（いた）ことはない」、3番目は【収入300万円未満】が「経済的な負担」、【収入300万円～800万円未満】が「負担に感じている（いた）ことはない」と、【収入800万円以上】は同率で「病気や予防の対応」・「散歩等の世話」であった。（図表2-2-2）

【図表 2-2-2】





* 不安や負担に感じているものについては、上位に挙げられた項目は概ね同様であったが、順位については、年齢層や世帯年収の違いによって、多少の違いが見られた。

**2-3（参考）ペットを飼うことで得られるメリットについて**

ペットを飼うことで得られるメリットについて、年齢層別での調査結果を参考に記載する。

◆若年層と中年層では「毎日が楽しく過ごせる」、高齢層は「心が通じ合うように思える／癒される」が最も割合が高かった。２番目は若年層と中年層が「心が通じ合うように思える／癒される」、高齢層は「毎日が楽しく過ごせる」、３番目は若年層が「寂しさが解消される」、中年層が「家庭や夫婦間が和やかになる」、高齢層は「ストレスを解消してくれる」であった。（図表2-3）

【図表2-3】





**3.ペットの飼育希望と代わりに世話をしてくれる人の有無との関係性**

まず、病気やけがなどのやむを得ない事情でペットの世話ができなくなった場合、代わりに面倒を見てくれる人はいるかとの質問に対しての調査結果を参考に記載する。

* 「同居の家族（61.7％）」が最も多く、次いで「別居の家族や親せき（21.2％）」、「誰もいない（21.1％）」であった。（図表3-1）

【図表3-1】





次に、今後のペットの飼育希望の有無と、ペットの世話をできなくなった場合に代わりに面倒を見てくれる人の有無との関係について検証した。

ペットを飼いたいと思うかとの質問に対して、「ぜひ飼いたい」、「できるなら飼いたい」と回答した人を【飼いたい】、「また飼いたいが飼うことが出来ない」、「飼いたいとは思わない」と回答した人を【飼えない・飼いたいとは思わない】とし、「その時にならないとわからない」と回答した人は除いた。

また、ペットの世話ができなくなった場合、代わりに面倒を見てくれる人はいるかとの質問に対して、「同居の家族」「別居の家族や親せき」「友人・知人」「その他」のいずれかを回答した人を【代わりの人あり】、「誰もいない」と回答した人を【代わりの人なし】とする。

* ペットの面倒を見てくれる人がいる場合は、いない場合に比べ、ペットを飼いたい（現在飼っている人は次も飼いたい）と回答した人の割合が高かった。（図表3-2）

【図表3-2】



**4. 代わりに世話をしてくれる人の有無と年齢との関係性**

　自分の病気やけがなどのやむを得ない事情で飼っているペットの世話をできなくなった場合に代わりに面倒を見てくれる人の有無と年齢層の関係について検証した。

* 若年層や高齢層の方が、中年層に比べ、代わりの人がいる割合がやや高かったが、統計上の有意差は見られなかった。（各年齢層の違いで、ペットの面倒を見てくれる人の有無に差は見られなかった。）（図表4）

【図表 4】



